

恋愛における嫉妬とは悪か？

2011 年 7 月 16 日(土)

文責：堀越

0. 概要；

- ・恋愛における嫉妬について、なぜ嫉妬するのか、どういう心の動きなのか、それは悪か、を考え、議論した。当会史上最高参加者数 23 名での話し合いだったが、最後まで理性的かつ深掘りした話し合いができ、嫉妬とは何かを少し掘めたように感じた議論となった。

1. 口火；

- ・5月放送 NHK 大河ドラマ「江」の一場面。親の仇として秀吉を憎み続けていた茶々が、若い側室と戯れる秀吉に怒り平手打ちをする。明らかに「嫉妬」という感情の発露である。憎しみから嫉妬への遷移は非常に興味深い。まずは、嫉妬する際のその心の動きを議論し、探りたい。なぜ人は嫉妬をするのか、嫉妬とは何か、を議論していきたい。

2. 議論；

- ・(1) 嫉妬とは何か、どういう心の動きから起こるのか、(2) 嫉妬は「悪」なのか、さらに(3) 嫉妬を管理するとしたらどうしたら良いか、という3つの視点から、考えてみた：

[前提] 「自分」、自分と恋愛関係^{a)}にある「恋人」、その関係を阻害する「他人」^{b)}を想定。

*a) そもそも、嫉妬が恋愛感情から湧き起こるということを前提に話しを始めたが、その原因は何も恋愛感情だけではないかもしれないという意見も出た。

*b) 他人という人間ではなく、他の物体・事象(例；ペットの犬、仕事)であつても嫉妬は成立するという意見も出たが、以下では人を想定。

(1) 嫉妬とは何か？

嫉妬に陥るとはどういう心の動きなのかを内省的に考えてみた；

- ① 「自分が恋人に注ぐ愛情量」と「恋人が自分に返してくれる愛情量」とがバランスを欠いた時に感じる、失望感、喪失感はその正体ではないか。
- ② “恋人が自分と他人を比較している”と恋人の心の中を想定し、結果的に「他人を選んだ」(自分は選ばれなかった)と考えることで湧き上がる劣等感ではないか。

(2) 嫉妬は「悪」か？

次に、嫉妬の持つ負の側面について考え、「悪」なのかどうかを議論した；

- ① 嫉妬は、自分の心の中で「後ろめたい」あるいは「恥ずかしい」感情を湧き起こすので、ある意味で「負」の感情ではないか。
- ② 嫉妬が、「自分が恋人に注ぐ愛情量」と「恋人が自分に返してくれる愛情量」との間のアンバランスが原因なら、その感情はストーカー行為の原因となる心理に通じ、そういう心理を持つこと自体が悪と言えないか。
- ③ 嫉妬は理性ではなく感情・情動であるため、「怒る」感情が殺人行為へと通じているからという理由から「怒る」感情を悪と言えないのと同様に、悪とは言えない。
- ④ 嫉妬は恋愛のスパイスになっており、嫉妬がないと恋愛は成り立たなくなならないか。嫉妬は、恋人が自分を愛してくれているという一つの確認であり、それがあつて恋愛が活性化し、喜びや幸福を与える側面もあるため、むしろ善の側面もある。

(3) 嫉妬をコントロールするとしたらどうしたら良いか？

(2)項「嫉妬は悪か？」を議論する前に、その負の側面を念頭に、「嫉妬はコントロールをすべき」という意見があり、そうするとしたら、どうしたら良いのかを考えた；

- ① 嫉妬が「自分が恋人に注ぐ愛情の量」と「恋人が自分に返してくれる愛情の量」とのバランスが主因とすれば、返してくれる愛情の量を利己主義的に期待せず、恋人のことを利他主義的により想い続け、愛情を注ぐ方向へと比重を移すことによって管理ができるのではないか。
- ② 「自分を愛し、自信を持つ、凜とした生き方」は、嫉妬を起こさない、管理しきることができるのではないか(実体験からの意見)。
- ③ 嫉妬を無理に管理しようとする、本来の恋愛感情を抑制する方向に働き、恋愛で得られる恩恵を無に帰さないか。

3. まとめ；

- ・これまでの6回(奇数回例会)で「心とは何か」を考えるための議論をしてきた。今回の議論は従来以上に、「嫉妬」という感情の鏡を通じて、その心の動きを覗けたように思う。
- ・上記以外の議論にも、是非議論してみたいテーマが色々と披露されたが、その議論はまた次の機会に譲るべく、紙面の関係からその一例だけを下記に示しておく；
 - 嫉妬は、恋愛の段階(ステージ)においてその発露頻度が異なる。
 - 嫉妬は、相手との距離感の認識で決まり、お互いの距離感の認識違いから起こる。
 - 恋愛はゲームである。

以上